

「入善町商工会青年部」部報

商工青年

発行日／平成23年10月5日

発行者／入善町商工会青年部

入膳5232-5

第47号



入善ふるさと七夕まつり
ウォーターシューティング ~恐怖の館~
(8月5日~7日)

2012 冬遊ぼう

第12回入善ラーメンまつり

平成24年2月開催予定

- 入善町商工会ホームページ <http://www.shokoren-toyama.or.jp/~nyuzen>
- 富山県商工会青年部連合会ブログ <http://www3.shokoren-toyama.or.jp/seinen/>
- 全国商工会青年部連合会Mail Magazine <http://21impulse.jp/>

平成23年度事業報告(上半期)

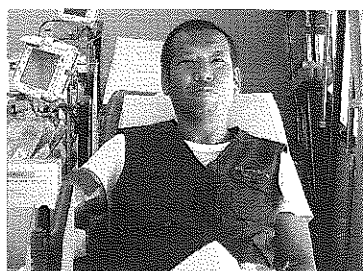
- 4月20日(水) 通常総会(うるおい館)
4月28日(木) 県青連通常総会
(県中小企業研修センター)
5月 2日(月) 東日本大震災被災地支援ボランティア
3日(火) 宮城県登米市 炊出し
5月12日(木) 第63回 愛の献血
5月27日(金) 舟見地区耕作放棄地再生活用事業(とうがらしの種まき)
6月 1日(水) 新入部員歓迎会(清八楼)
6月21日(火) 県青連商工会対抗ゴルフ大会 団体優勝
(トナミロイヤルゴルフ倶楽部)
7月 5日(火) 呉東地区主張発表大会(立山町民会館)
発表者 野口 大輔 優秀賞
8月 5日(金) 入善ふるさと七夕まつり
~7日(日) ウォーターシューティング ~恐怖の館~・短冊コーナー
8月11日(木) 舟見地区耕作放棄地再生活用事業(とうがらしの収穫)
24日(水)
8月26日(金) 主張発表県大会(県中小企業研修センター)
発表者 野口 大輔
9月 4日(日) 県青連ソフトボール大会
(射水市 大島中央公園野球場) ※台風のため中止
9月15日(木) 第64回 愛の献血
9月16日(金) 元気事業委員会発足(マスコットキャラクター制作)



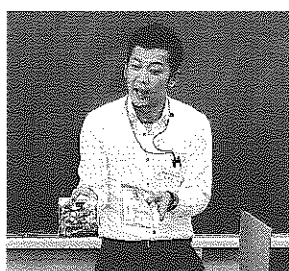
通常総会



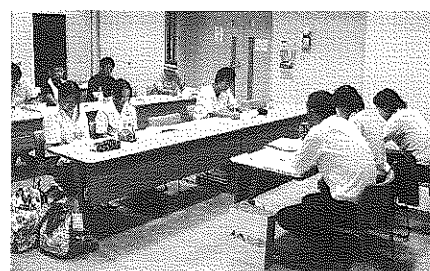
耕作放棄地再生活用事業



愛の献血

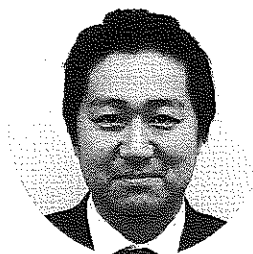


元気事業委員会



マスコットキャラクターについての講習会

部長挨拶



部長 中 瀬 淳 哉

(平成23年度・24年度)

この度、入善町商工会青年部第30代部長となりました中瀬淳哉です。

今年度は東日本大震災という未曾有の災害により幕開けとなってしまいました。多くの尊い命が犠牲となり、そして経済も大打撃を受けました。また、それに追い打ちをかけるかのように、相次ぐ異常気象による集中豪雨や台風による影響も受けました。まさに日本が困惑しているといっても過言ではないと思います。

しかしそんな中、日本全体が「がんばろう！日本」という合言葉を掲げ、一つになろうという意識が生まれています。これは新しい動きだと思います。ただ個々の利益のみを追求するのではなく、社会全体の利益を考え、日本全体を元気にしようと、個々が自分の出来る範囲で活動しています。

今こそ、我々入善町商工会青年部も気持ちを一つにし、この未曾有の危機を乗り越えようではありませんか！入善町の若者には元気があります。この若い元気な力で入善町、富山県、そして日本を元気にするために活動していきます。2年間どうぞ宜しくお願い致します。

入善町商工会青年部役員名簿

役 職 名	氏 名	事 業 所 名
部 長	中 瀬 淳 哉	(株)米澤電気商会
副 部 長	上 田 勝 也	(株)黒東アメニティ公社
副 部 長	佐 田 洋	丸善醤油(株)
副 部 長	岡 田 亮	(株)アート工房
理 事	廣 川 範 樹	廣川建設工業(株)
理 事	藤 井 一 馬	(有)清八楼
理 事	米 沢 元	越
理 事	西 川 貴 幸	西川自販(株)
理 事	上 野 幸 樹	新橋
理 事	浜 田 雅 弘	浜田瓦店
監 事	下飯野 隆 志	(株)下飯野
監 事	吉 田 雅 昭	(株)吉田工務店
相 談 役	松 岡 直 樹	吉原建設(株)

入善ふるさと七夕まつり

ウォーターシューティング ～恐怖の館～

青年部七夕まつり実行委員長 宮 嶋 晃

今回青年部イベントの実行委員長として、ウォーターシューティング恐怖の館を行い、例年通り盛況の内に終わり、青年部の皆様ご協力ありがとうございました。

4月の中旬に中瀬部長から「七夕まつりの青年部実行委員長をやってくれんか?」と電話があり、去年初めて七夕まつりに参加したばかりだったので、自分に務まるかとても不安でしたが、中瀬部長から「宮嶋くんなら出来る」と言われ、引き受ける事にしました。

最初はどんな出し物にしようか何も思いつかず、1回目の打ち合わせの時青年部員の皆に「何すればいいですかね?」と聞いてばかりいました。「好きなことすればいいよ」と言われましたが、なかなか良いアイデアが浮かばず、2回目、3回目の打ち合わせでもなかなか決める事が出来ないまま時間ばかり過ぎ、1か月位過ぎていってしまいました。

結局去年と同様、お化け屋敷にしようと思いましたが、去年と同じではなく、今年は自分がリーダーなので何か違うものを取り入れたいという気持ちがありました。そこで今年は猛暑だった為、水を使って涼しくなるようなお化け屋敷にしたいと思いましたが、なかなか言い出せませんでした。そしてある日の打ち合わせ後の飲んだ席で「バイオハザードみたいなシューティングゲームをお化け屋敷に取り入れたら面白いんじゃないですかね?」と、ふと言ってみたところ「それ打ち合わせの時に言ってくればよかったんに〜!」と言われ、その一言で急遽「バイオハザードのようなお化け屋敷」をしようと思えました。

次の打ち合わせの時に、どんな内容にするか話し合ったところ、お客さんに水鉄砲を持ってもらって、青年部員はゾンビの格好をして水鉄砲で撃ち合おうという内容に決まりました。

そして内容が決まったところで資料作りが始まりましたが、自分はパソコンが大の苦手の一つ作るにも四苦八苦していました。思った通りに資料がうまく作れなくてどうしようかと悩んでいましたが、去年の七夕まつりの青年部実行委員長だった竹内さんに去年の資料をもらって参考にしたり、岡田さんにアドバイスしてもらったりしてどうにか資料を作っていくことが出来ました。

そしてその資料を基に青年部員の皆で話し合っ



て次は班ごとに打ち合わせや準備をしてもらいました。中には早くからベニヤにペンキで色を塗ったり、ゾンビのマスクや衣装を購入したり、図面を作ってくれたり等、色々協力してくれた青年部員の方々がたくさんいたのでとても助かりました。

準備がひと段落したところで次はみら〜れTVのCM撮影となりました。

CM撮影でもどんなCMにするか考えなくてはなりませんでした。また案が浮かばず青年部員の皆にアドバイスをもらい、なんとか案も固まり撮影本番となりました。本番ではゾンビのマスク

を被ってのパターンとマスクなしのパターンの2パターンを撮りました。これはゾンビのマスクが恐すぎたのと、著作権の問題もあるかもという理由で、マスクを被ってのパターンが放送出来るか分からないと言われたからです。

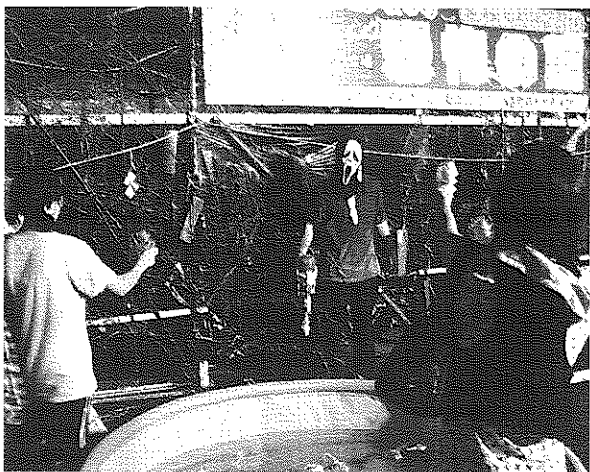
無事みら〜れTVの方からマスクを被ってのパターンが放送出来るという知らせが来たので理想通りのCMが放送される事になりました。

いよいよ8月に入り準備も大詰めになり、足場作りが始まりました。その日は足場作りの業者の方が午前中に足場を完成させてくれていたので、さっそく夕方から班に分かれてベニヤを立てて壁から作っていきました。この日も猛暑日でもとても大変でしたが、たくさんの青年部員に協力してもらった事と、去年とやる事が似ていた為予想より早く作業を終えることが出来ました。

準備2日目は七夕飾りに使う竹を刈りにいきました。その日も平日の昼間にもかかわらずたくさんの青年部員が来てくれました。中瀬部長がチェーンソーを持ってきてくれて豪快に竹を刈っているとアクシデントが occurred。「痛い!!」という中瀬部長と西川さんの声が聞こえ、何事かと思うと2人共ハチに刺されたらしく、腕が腫れ上がっていました。急いで病院へ行ってもらって幸い一大事にはならなかったようなのでほっと一安心しました。その後も残った青年部員でハチに気を付けながら無事刈り終えて帰りました。その夜刈ってきた竹を使い、まわりに短冊コーナーを作りました。内装も仕上げに入りいよいよ完成に近づきました。

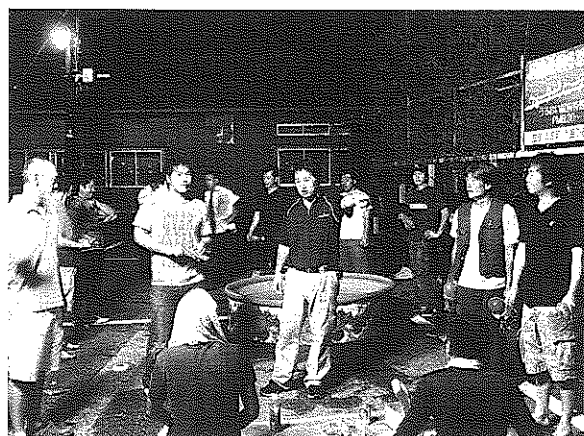
3日目は内装がだいぶ完成したので1回中を回ってみることにしました。そこで中が明るすぎるといった問題点に気付きました。天井は何もつけないという予定でしたが、明るいと怖さも半減する為急遽ブルーシートで天井を覆うことによって問題点は改善出来ました。

そしていよいよ8月5日本番初日となりました。開始前から子供たちの行列が出来ていて緊張がピークに…。開始時間の18時半になり順調に始めることが出来ました。ところが、20時頃どしゃぶりの雨でお客さんがまったく来なくなり22時終了の予定が21時で終了となりました。それでも400人以上のお客さんが来てくれたのですごく嬉しかったです。しかし、ゾンビ役の青年部員が暑さや疲労の為、1日目とても大変そうだったので、あと2日間体力がもってくれるかなと不安でした。それでも青年部員の皆が「あと2日がんばろう!」と言ってくれたのでとても心強かったです。



そして2日目、3日目とだいぶ慣れスムーズに営業することが出来ました。青年部員のおかげで3日間合計で1,500人弱の集客ができ、大成功に終わりました。最初は不安でしたが、青年部員の皆の協力がありなんとかこの大役を果たすことが出来ました。人に任される事が初めてだったのでいい経験になりました。まだ青年部には10年以上お世話になるので、この経験を生かし今後も活動していきたいと思えます。

最後に協力を頂いた青年部員の皆様、本当にありがとうございました。



青年部主張発表大会

青年部活動と地域振興 「ありがとうと笑顔が結ぶ地域愛」

発表者 野口大輔

①前フリ

ありがとうって言葉を 今あなたに伝えるから
繋がれた右手は誰よりも優しく ほらこの声を受け止めている
ありがとう…この言葉は魔法の言葉だと私は思います。
ありがとうという言葉は耳障りの良い、人を気持ちよく
させてくれる言葉だと思います。ありがとうって心から笑
顔で伝えるととても良い気分になり、幸せが1つ生まれる
と思いませんか？



②自己紹介&入部のきっかけ

いきなり歌いすいません。そして歌を聴いてくださり、
ありがとうございます！

ご挨拶おくれました。私は入善町商工会青年部員で飲
食店を経営している、野口大輔と申します。

私は入善町が大好き人間です。入善町は過疎化、高齢化、若者離れが進む中、入善を元気にし
たい！入善に笑顔が沢山集まればいいなという強い思いから地元で飲食店を開業いたしました。

青年部に入ったきっかけは私と同じ熱い思いを持った仲間からのお誘いをうけ、町を盛り上げ
る事が目的の集団に、僕がいなければどうする！ ぐらいの勢いで店のオープンと同時に入部さ
せていただきました。

青年部に入って自分を1番成長させてくれたのはありがとうという言葉でした。私は正直これ
までありがとうって言葉の大切さ、深さ、重みに気づきませんでした。お客様や青年部の仲間が
飲みに来てくれて、帰りぎわに、「今日はありがとう！また来るっちゃ！」と笑顔で言ってくれ
ます。お金を頂いたうえにありがとうって言ってもらえるなんて、すごく幸せな気分になれます
し、その人の事がどんどん好きになります。自分の店に来て頂いて、ほっと一息気持ちよくなっ
てもらってのありがとう！ 自分自身そのありがとうにとっても勇気づけられ元気を頂いておりま
す。もちろんその反対に、嫌な思いをする事も多々あります。それゆえに1つ1つありがとうと
笑顔を大切に、思いやりをもって人に接していきたいものです。

そんなありがとうって言葉。私は青年部活動や、地域振興もこの魔法の言葉ありがとうと笑顔
で繋がっていると思います

③ラーメンまつり

毎年青年部最大のイベント、入善町冬の風物詩として定着した 入善ラーメンまつりもありがとう
と笑顔のイベントです。今年は出店数 24 店舗と日本海側最大のラーメン祭りに成長し、来場者数何
と 1万2千人を越えました。約4ヶ月前から準備をすすめ、企業PR ブースとして色んな趣向をこ

らしたお店の出店もしました。長野県小布施町青年部さんからは、りんごワインや小布施そばの販売等又、イベントブースでは町内の学校の吹奏楽演奏や、キッズダンスショー、働く車にのれるイベント等ラーメンだけではなく、お腹もいっぱい心もいっぱい笑顔、笑顔、笑顔いっぱいのイベントになりました。

笑顔とありがとうが沢山集まるイベントラーメンまつり。今後もみなさんに楽しんでもらえる様精一杯頑張っていきたいと思っています。



④ ブラウンラーメン

そしてそしてみなさん！入善ブラウンラーメンってご存知でしょうか？

入善海洋深層水仕込みの中太シコシコ麺に入善青年部所属の老舗味噌屋の自家製味噌にエビエキスを混ぜ込んだ特性スープが絡み合う、町の新名産、我々入善町青年部から生まれた自慢のご当地B級グルメです。

そしてこのブラウンラーメンも今沢山の人の笑顔にし、ありがとうって言葉を頂いてます。

現在ブラウンラーメンは入善町の22件の飲食店で食べて頂くことができます。もちろん私の店でもこれまでに沢山のの方にブラウンラーメンを食して頂いております。私たち青年部員は県内外のお祭りやイベントにブラウンラーメンを出店し、今後もブラウンラーメンと、入善町の知名度アップに努め、町の活性化と認知度アップに繋げていきます。

そしてあの3月11日、東日本を襲った未曾有の大震災。入善町青年部は、姉妹都市でもある宮城県登米市の避難所に慰問し、ブラウンラーメンの炊き出しを行って来ました。一步ずつ、未来に向かって、歩み始めている被災者の方々。そんなみなさんから数え切れないほどの笑顔やありがとうの言葉を頂きました。このブラウンラーメンがこれからも沢山の笑顔を生み、そして何かしらの形で世の中の役にたっていければと思います。

⑤ メと自分の主張

皆さんは生きていく中で何が1番大切だと思いますか？

私は青年部活動や、仕事を通じて色々な人と出会う中で、好き、嫌い、得手、不得手などさまざまな感情が交差します。しかし他人の嫌な部分を見るより、自分の嫌な部分を改め、全ての人にありがとうの感謝の気持ちを忘れず笑顔で接したい！やはりこの気持ちが生きてく中で一番大切なのではと私は思います。

私の夢は日本一の飲食店を作る事です。その夢への道のりもやはりありがとうの感謝の気持ちと笑顔が大切だと考えています。

思いがけないことでありがとう！

ふと気がついた事でありがとう！

いつも言えないありがとう。

日ごろ言葉の少ないあなた！笑顔でありがとうって言うてみたらいかがですか？

ありがとうって言葉を今あなたに伝えるから。

ご静聴ありがとうございました。



入善町商工会青年部 宮城県登米市炊出しについて

日 時：2011年5月2日～3日（炊出しは3日 昼食）

場 所：宮城県登米市 米山地区 旧善王寺小学校 避難者50人
津山地区 津山若者総合体育館 避難者250人

参加者：入善町商工会青年部 計8名

中瀬 淳哉、松岡 直樹、佐田 洋、岡田 亮、廣川 範樹、
米澤 元、古川 琢也、事務局

タイムスケジュール

5月2日

8:30 集合
9:15 出発式（うるおい館前にて）
9:40 出発
10:00 朝日IC
16:30 仙台宮城IC
17:00 仙台市内ホテルチェックイン
17:30 仙台港付近視察
20:30 夕食
21:30 ホテル着

5月3日

6:50 集合
7:00 出発（松島を通り登米市へ）
9:30 登米市米山総合支所
（登米市長 他 お出迎えしていただきました）
10:00 旧善王寺小学校 炊出し準備（第1部隊）
10:30 津山若者総合体育館 炊出し準備（第2部隊）
12:00 入善ブラウンラーメン炊出し開始
14:00 終了、片づけ
15:10 登米市出発
15:30 登米IC
16:30 石巻IC 石巻海沿い視察
17:30 石巻IC 帰省
1:30（5月4日）到着、解散

登米市炊出しを終えて

部長 中瀬淳哉



米澤町長からの激励

5月2日、米澤入善町長や松澤議長、竹島農水商工課長をはじめとする入善町の皆様、そして扇原商工会長をはじめとする商工会の皆様に見送られながら出発した。途中、食事・休憩をしながら、7時間程度かかり仙台市に到着、ホテルに着いた。ここで、部員から声上がる。「全然普通やな〜。」ライフラインは復旧しているし、道路も車が普通に走れる状態、道行く人もいたって普通だった。実際、私たちがニュースや新聞で得る情報では、東北全部が被災

していると思っていたので、非常に驚いた。しかし、ホテルにチェックインしてすぐに行った仙台港で言葉を失った。

がれきの山に、車が大破、そして大きな船が陸にあがっていた。ただただ、茫然とするしかなかった。仙台市内で食事をして、ホテルに帰った。食事をした定食屋の従業員や、ホテルの従業員と会話をすると、やっぱり親族が被災していたり、知り合いといまだに連絡がとれなかったりという声を聞いた。でも、合わせて「そんなことを言ってもしょうがないでしょ。」という声も聞いた。

次の日、5月3日いよいよ登米市炊出しの日だ。9時半に登米市の方と待ち合わせをしていたので、7時に出発し途中松島を通過した。日本三景のひとつ松島が壊滅的だということも聞いていたのだが、きれいな景色だった。周りのお土産屋さん結構被害もあったようだ。その後、内陸を走って登米市へ向かう。内陸では、地震の影響により、一般道は道がアップダウンしていたり、住宅の瓦が破損していた。

9時半に登米市米山総合支所に到着。布施登米市長他8名に出迎えをうける。その際、今回の震災発生からの経緯などを伺う。

それによると、

- ・南三陸町から津波発生直後に着の身着のまま避難されてきた方ばかり。
- ・海沿いの方が多く、皆さんタンス預金しておられて、手元にお金が無い方が多い。
- ・当初は、8,000人近くおられたが、現在では、自宅に戻られた方や親戚・知人を頼って行かれた方が多く、800人弱に減った。
- ・地震発生直後から物資や義援金を提供した入善町に非常に感謝している。

ということだった。私たちも今日ここに至った経緯をお話させていただく。



布施登米市長の出迎え

その後、登米市職員の方に先導してもらい、旧善王寺小学校に向かう。そこには、50人程度の方が避難しておられる。調理室をお借りしてラーメン作りの準備に取り掛かった。そこで、登米市の広報の方に取材を受ける。荷物を下ろして、津山若者総合体育館へ向かう。

津山若者総合体育館には250人程度の方が避難しておられた。まず、体育館で打ち合わせをさせていただいたが、隣の方とは隙間も無く、体育館中、布団や荷物であふれていた。グラウンドでタープを張り、そちらで準備をさせていただく。

お湯が沸くまでの間、子どもたちと遊んだり、被災された方に話を聞いたりした。

・地震自体が5分や10分という長い時間が続いていた。その後、すぐに外に出ると、津波が来ているのが分かったからそのまま逃げた。

・外に出ていたから分かったが、家の中にいた人は助からなかっただろう。

・2階へ行けば大丈夫と思った人も、ほとんど助かってはいないだろう。

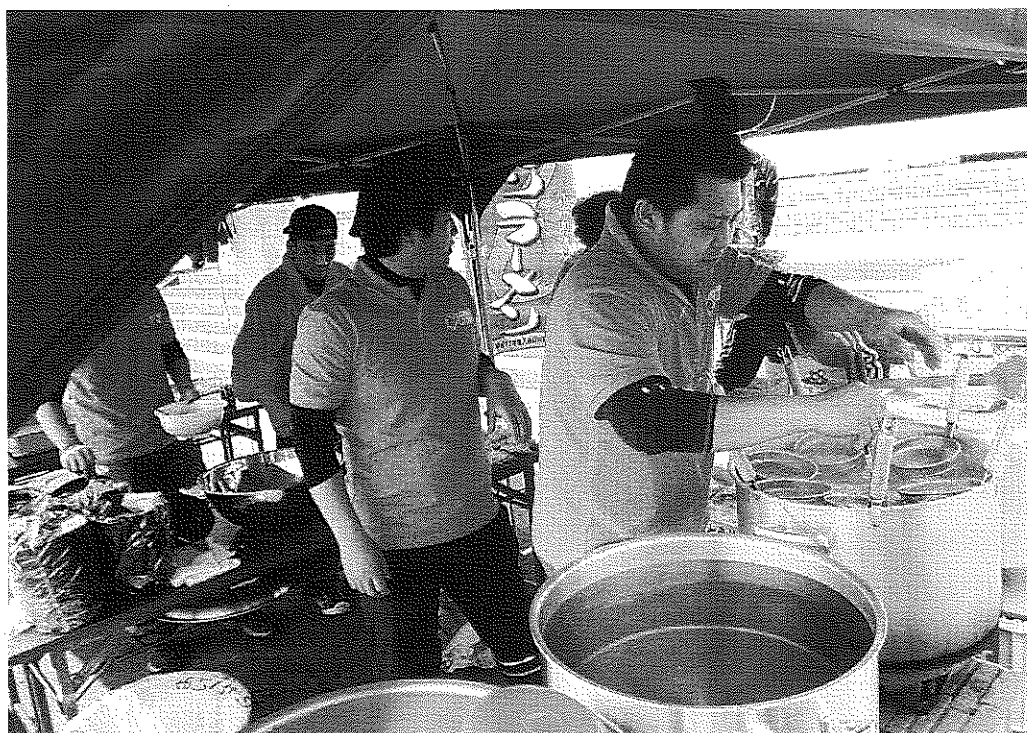
・そのため、若者もかなり亡くなっている。

・仮設住居へ入るのにもお金がかかるので（光熱費など）どうすればよいのか。

ということだった。

いろいろな方が、自分たちのラーメン作りを見て話しかけてきた。このラーメンのことや入善町のこと、自分の父や母が入善町出身だという方、池田水産の船に乗っていたという方など、入善町にゆかりのある方もいた。皆さん口々に「うれしいわあ。楽しみにしているね。」と声をかけてくださった。

いよいよお湯が沸き、ラーメンを作るという段階で、被災者に今回の経緯を説明してくれとの



ことだったので、体育館で説明をする。その際、私たちが来なかった際の昼食が置かれていたが、パンと常温の牛乳だった。ずっとこのような感じらしい。

さて、いよいよラーメン作りの開始。毎食、食事当番が決まっているらしく、その当番の方々が盛付や運搬を手伝ってくれた。みんな明るく優しい方々だった。ラーメンを食べ終わった方々が「ありがとう。おいしかったよ。」と言ってくれた。また、子どもたちもとても喜んでくれた。ほっとした。片づけを終了し最後に全員で体育館へ。皆様にお礼をいうと一斉に拍手が上がった。こみあげてくるものがあった。

その後、登米市職員の方にお礼を言って、登米市を後にする。登米ICから入り、途中石巻市で高速を降りて、海沿いへ。

本当に壊滅的だった。言葉も出ない。津波のすごさをまざまざと見せつけられた。がれきの山で道もなんとか通ることが出来るといったところだった。信号も動いていなく、警察が誘導していた。(愛知県警) 一体復興には何年かかるのだろうか。



しかし、この海沿いから3km内陸に入った場所ではすでに人が普通に生活していた。飲食チェーンも営業していたし、ガソリン供給されていた。しかし、どこを見てもがれきの山が目に入った。

その中、一生懸命生活している被災地の人々の力強さを感じた。

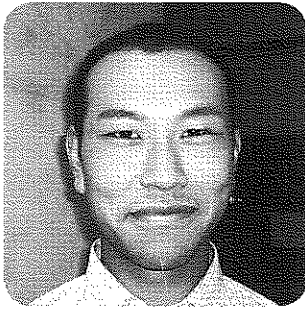
帰りは帰省ラッシュにもあって、到着が深夜の1時半だった。

今回の炊出しを通じて感じたことだが、やはり私たちが得ることが出来る情報は、ニュースや新聞でしかなく、実際の状況が入ってこない。私たちも今回行くにあたり、「本当に大丈夫だろうか?」と思っていた。ライフラインは大丈夫か? また被災地の人たちの心は大丈夫か? 自分たちが行っても本当にいいのだろうか? と不安だらけだった。しかし、実際に行ってみると、被災地の方々は本当に喜んでくれたし、ライフラインも海岸沿い以外は大丈夫だった。そして何より自然の脅威をまざまざと感じ、被災地の人たちの本当の苦勞を聞くことが出来た。おそらくこの復興は何年も続くだろう。この先、私たちの出来ることがあるのなら、ぜひ協力をしたかった。

終わりに、今回の炊出しで多くの方から支援、激励の言葉をいただきました。本当にありがとうございました。

新入部員紹介

- 〈質問内容〉 ①名前 ②生年月日 ③企業名、自社紹介 ④入部のきっかけ
⑤趣味 ⑥長所・短所 ⑦自分を漢字一文字で表すと
⑧これからの青年部活動への抱負



①古川 琢也

- ②1983年2月26日
③尙古川建設
④お上からの命令
⑤スポーツ、バイク
⑥長所 素直
短所 気分屋
⑦笑
⑧卒業まで11年。焦らずいろんな経験をしていきます。
良いこと、悪いこといろいろとご指導よろしくお願ひします！



①尾山 善彦

- ②1981年9月17日
③株ヤハタセイコー
④父親の勤めです
⑤極真空手、雀鬼流
⑥長所 真実の追求者
短所 恐怖を乗り越えられない
⑦刹
⑧少しずつでも、着実に社会貢献がしたいです。

編集後記

また例年通りのこの時期がやってきました。そう、『商工青年』の編集後記です。何度書いても、いつも何を書こうか、考えてしまいます。編集後記って何だろう？調べた結果は、「作った人が好きな事を書くもの」。シンプルで良いですね。というわけで好きな事を書きます。

最近、金魚の飼育を始めました。とても綺麗で水槽の周りから離れられません。あの愛らしい姿は、一度飼ってみると病み付きになりますね。もし、好きな方がいたら私と一杯やりながら金魚談義でもしましょう。

上野幸樹

